

富川市、民選8期公約確定

-10大分野、4大圏域における157の生活密着型公約に対する公約実践計画を策定
-趙甬翼市長、「市民との大切な約束、蹉跎なく推進していくために最善を尽くす」



▲富川市庁の全景

富川市（市長：趙甬翼）は、1月30日、民選8期10大戦略と5大中核公約など、計157の公約実践計画を確定し、富川市のホームページに公開した。

富川市は、「市民幸福中心、革新未来都市富川」というビジョンの下、△公共交通機関が便利な交通都市△スマート都市設計で暮らしやすい快適都市△働き口の多い経済都市△地域社会統合ケアの福祉都市△デジタルコンテンツ産業を先導する文化都市△都心の中に憩いがある余暇都市△子どもを安心して育てる保育・教育都市△犯罪・事故のない安心・安全都市△疎通と奉仕の市民主人都市△カーボンニュートラルを先導する環境都市など、10大分野と5大中核公約の公約体制を備え、4大圏域における生活密着型の公約含む計157の公約実践計画と任期内の計5兆5千113億ウォンの財政投資計画を樹立した。

富川市は、趙甬翼市長が就任する前の市長職引継委員会にて選定した公約内容に基づき、公約推進報告会と部署検討、昨年12月の公約実践計画の策定に向けた市民評価団による運営会議などの意見収集の続きを経て公約実践計画書を最終確定したと説明した。

また、今後、四半期ごとに公約独自評価を通じ、事業別の推進実績と履行率を点検すると共に、毎年、公約履行市民評価団を構成して公約事業の問題を補っていくことで、蹉跎なく公約を推進できるよう管理していく計画だ。公約事業の推進実績などの詳細については、富川市のホームページを通じ、市民に透明に公開していく予定である。

趙甬翼富川市長は、「公約は富川市の未来と市民の暮らしの質の向上のための市民との大切な約束だ」とし、「市民の意見を積極的に収集し、任期内に市民との大切な約束が早急に推進できるよう最善の努力を尽くしていく」と述べた。